

依存症の併存:スクリーニング調査の結果と解釈

健康政策医学
野田 龍也

1

依存症の概念

依存症の現状

ネット依存の立ち位置

調査結果と展望

2

依存症の概念

3

DSM-V (2013)

物質関連障害

と

嗜癖性障害

4

嗜癖性障害:

「ギャンブル障害」のみ
が認定されている
(DSM-Vで初認定)

5

嗜癖性障害:

「インターネットゲーム障害」は将来の認定を検討すべき候補とされた

6

「インターネット依存症」
は候補リストにも入っていない(精神科の中でも懐疑的な見方が強い)

7

インターネット依存症:
現状を整理し、他の依存症との「距離」を見る
→調査を実施

8

インターネット依存症スクリーニングテストの構築

9

PsychoINFOに収載されたインターネット依存に関する論文(被引用のあるものに限る)を対象に、210項目を抽出し、医師、臨床心理士、社会心理学者の3名がKJ法を用いて尺度を再構築した。

10

最終的に、18項目からなる「統合インターネットアディクション尺度」を作成。

→1069名を対象に調査

→他の依存症の尺度をあわせて調査(IAT, AUDIT, FNDT, SOGS)

11

依存症尺度間の相関係数

尺度1	尺度2	相関	下側95%	上側95%
統合IA尺度	IAT	0.88	0.86	0.89
統合IA尺度	AUDIT	0.03	-0.04	0.09
統合IA尺度	Smoke	-0.03	-0.09	0.03
統合IA尺度	SOGS	0.17	0.08	0.25

尺度1	尺度2	相関	下側95%	上側95%
IAT	AUDIT	0.05	-0.02	0.11
IAT	Smoke	-0.05	-0.11	0.01
IAT	SOGS	0.16	0.08	0.25

12

- 統合IA尺度とIAT(既存のIA尺度)は高い相関
- 統合IA尺度・IATともにSOGS(ギャンブル依存)と高い相関(先行知見どおり)
- 他の依存症(アルコール、タバコ)との相関は高くない

13

- 統合IA尺度の妥当性は、とりあえずはクリア(今後、精緻な分析を進める)
- ギャンブル依存と親和性が高く、アルコールやタバコへの依存とはそれほど親和性が高くない点をどう解釈するか。

14

今後は、より精密な手法で依存症間の距離を算出するとともに、インターネット依存症が他の依存症とどの点で異なり、それがどのような意義を有するのかを議論していく予定です。

15